

◇第38回JA宮城県大会決議の全体像

本県JAの
目指すもの

力強い農業と豊かな地域づくり

持続可能な農業の実現に
よる宮城県農業の復権

豊かな農村地域社会の創造

持続可能な農業の実現を目指し、JAグループの総力を挙げて「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」を自己改革の基本目標として取組みます。

「地域営農ビジョン」において、地域農業の担い手を位置づけ、JAは担い手経営体ごとの経営規模や経営形態等の特性に応じて対策を策定・実践します。

また、震災からの復興は前進しているものの、「復興」を各重点実施事項の基本と位置付け、継続して震災復興に取り組めます。

<実践事項>

1. 地域営農ビジョンとJA地域農業戦略の策定・実践
2. 担い手経営体のニーズに応える個別対応の強化
3. マーケットインに基づく生産・販売事業方式への転換
4. 付加価値の増大と新たな需要開拓への挑戦
5. 生産資材価格の引き下げと低コスト生産技術の確立・普及
6. 新たな担い手の育成や担い手のレベルアップ対策
7. 自己改革を実現するための営農指導事業強化

超高齢・人口減少社会の到来が予想される中、特に農村地域では、その傾向が顕著となっています。

JAは「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として、地域活性化への貢献を基本目標とし、支店等を核とした「くらしの活動」の実践強化に努めます。

また、JAは総合事業を柱としてより地域に密着した組合員・利用者の期待に応える事業を展開してまいります。

<実践事項>

1. 支店等を核としたくらしの活動の実践強化
2. 地域実態・ニーズをふまえたJAくらしの活動とJA事業の展開
3. 地域循環型社会への取組みの実践
4. 食と農を基軸とした「くらし・いのち・地域」を守る運動の展開
5. 組合員・利用者の期待に応える総合事業の展開

農業と農村を支えるJA経営の確立

「力強い農業と豊かな地域づくり」を実現するためには、足腰の強い基盤が必要です。組織（組合員・利用者）基盤、財務基盤の拡充強化のもと大会決議実践事項の実現が図られます。

特にJAグループ自己改革においては、組合員の「アクティブ・メンバーシップ」（「わがJA」の意識を持ち事業や活動に積極的に参加すること）の確立が提起されています。

<実践事項>

1. 組合員・利用者基盤の確保
2. 「人材」の確保・育成
3. 「食」「農」「協同組合」にかかる国民理解の醸成
4. 経営管理態勢の充実強化
5. 財務基盤の確保
6. 農協改革、農協法改正への対応
7. 県大会議案の実践

新たな組織再編構想の実現